

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【加古川大堰】

平成25年3月

近畿地方整備局

姫路河川国道事務所

【加古川大堰】

1. 事業の概要

特になし

2. 治水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.3 洪水時の対応状況 本編 p 2-13 ~19	・洪水対応の基本パターンでは事前放流で貯水池水位を TP10.0m まで下げることになっているが、5年間の主要な洪水のグラフでは TP10.0m まで下がりきる前に全開放流に移行している。時間的余裕がないようにも見えるが、課題はないのか。また、流入量の実績値ではなく、予測値は使わないのか。	・実績として危険な状態にはなっておらず、堰の操作遅れが致命的な洪水被害の要因になる可能性は低い。330m ³ /s という数値の是非については、当面は現状を維持しながら検討を続けていく。予測値の活用については、堰の操作に入る前の準備体制として、安全側を見て堰の操作回数よりも多い回数で職員を配置する体制になっており、特に強い雨が来ているなど危ないと判断されるようなケースでは、より早く操作を開始することが可能。	—
2.4 まとめ 本編 p 2-26	・体制発令回数が多いのが問題としているが、対応策はあるのか。安全基準を緩める事にならないか。体制の発令回数と操作回数の差は、予測の精度が上げれば改善できるのか。	・体制の基準は、最悪の事態を想定し気象や水象の変化も悪いほうのケースで決めており、それを更に詰めていくことは危険側になり実際には難しい。安全基準を落とすことはできないが、体制の工夫で今の安全度を維持しながら負担が軽くなれないか検討していきたい。	—

3. 利水

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

特になし

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
<p>6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証 本編 p6-130、133、171</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性魚類の連続性が多少阻害されているというのは、魚道が十分に機能していないと考えたらよいのか？ また、回遊性魚類の連続性に関する報告書の記述はわかりにくい。なお、魚類の生息状況のまとめの表現については、猿谷ダム同様、チェックしたものを渡すので、見直して欲しい。 ・ヨシノボリ類の調査結果から見ると、陸封化についてはそれほど問題にするような状況ではなく、魚道も有効に利用されていて、それほど問題ないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加古川大堰の魚道はアユの遡上を念頭に設置されており一定の効果は出ているが、ハゼ科の魚類について陸封化の可能性があるとこのデータが出ており、もう少し詳細に調べていきたい。 <p>【委員会の意見により修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本編 p6-133 回遊性魚類の陸封化についての最後の記述は、「これらの種は堰による分断の影響を受けている可能性が考えられる。したがって、今後、これらハゼ科魚類の遡上について精査する必要がある。」に修正。 ・本編 p6-171 今後の重点的取り組み事項の内、魚道の改善の2項目の記述は、「遡上阻害を受けている可能性のある回遊性魚類の動向把握に努める。」に修正。 ・その他、指摘の誤字等を修正。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き調査を行い、状況把握に努める。
<p>6.5 まとめ 本編 p6-171</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種への対策が記述されていない。他のダム等では職員や市民と共同で外来種の駆除をしているところもあり、ダムや堰は下流への供給源になっているので、もっと積極的な対策が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大堰の湛水域区間では見守っている状況ではあるが、上流の区間などでは河原の植生を職員も出て外来種駆除を行っているところもあるので、そういったことも積極的にPRして協力者を募るなど対応を検討していきたい。 <p>【委員会の意見により修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本編 p6-171 の外来種対策に、特定外来種の駆除など対策の検討を実施する旨記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種対策については継続的に調査して状況把握に努めるとともに、駆除など対策の検討を実施する。

7. 堰と周辺地域との関わり

特になし